

日刊 勤労千葉

84. 11. 14

No. 1792

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

11/5 乗務員分科会が「動乗勤協定」の学習会を開催

乗務員分科会は十一月五日、千葉運転区講習室において、「60・3ダイヤ改悪阻止にむけた学習会」を開催しました。
全支部から、ダイヤ検討委員を中心に参加した六〇名の組合員は、熱心に動乗勤協定を学習することに、「60・3」ダイヤ改悪阻止を闘いぬく決意をうち固めました。

改悪「動乗勤」を空洞化させる
闘いを——西森会長があいさつ——

高橋乗務員分科会執行委員の司会のもと、冒頭、乗務員分科会を代表して西森会長は、「国鉄当局は『60・3ダイヤ改』において、全国で二五〇〇〇人、そのうち運転関係で一二五〇〇の要員合理化を強行しようとしている。千葉局においては運転関係で三〇〇人、そのうち二〇〇人を動乗勤の新制度により要員合理化する計画を提案している。『60・3ダイヤ改』は動乗勤制度が改悪されて最初のダイヤ『改』であり、われわれの闘いの成果が今後の動力車乗務員の労働条件ばかりでなく、国鉄内全職種の労働条件をも決定する重要な闘いであることを認識し、本日の学習会で動乗勤協定の理解を深め、動乗勤改悪攻撃の当局の狙いを空洞化させてしまいうような現実の闘いを各支部で、ダイヤ検討委員会が中心になって指導してほしい」とあいさつしました。

続いて、本部を代表して、布施書記長から今日の情勢と「60・3ダイヤ改」の基本的取り組み等々について提起をうけました。

熱心な学習で「60・3」阻止を確認

学習会は安田事務長、渡辺副会長が講師となり、「動乗勤協定」の第一条から第二五条まで、明解

詳細な逐条解説がおこなわれました。
その間受講者は、真剣なまなざしで分科会が作成した学習会資料に見いっていました。

質疑応答では主に、「乗務割交替作成上の問題点」「出入区と入換のとり方について」「準備時間の構成」「行先地の時間と待合せ時間」等々のつっこんだ質問が出されました。

質問に対して、講師は具体例を黒板に書き出し、受講生は熱心にノートをとりながら活発な質疑応答が続くなど、学習会は成功裡に終了しました。
乗務員分科会は学習会の討論にふまえ、「60・3ダイヤ改」の取り組みについて、次の二点を確認しました。

- ① 内達対策委員会を中心に、支部ダイヤ検と連携を密にし、分科会の総力を結集して闘いぬく。
- ② 基地統廃合につながる「混運用」「ロングラン運用」絶対反対の立場で取り組む。

近く、提案が予想される「60・3ダイヤ改」を、首切り「三本柱」粉碎、分割・民営化阻止の立場で、全支部から実力反撃の闘いをまきおこしていこう。

（乗務員分科会通信員・発）

県労連議長杯争奪 第12回囲碁・将棋大会

十月十三日、県労連議長杯争奪第12回囲碁・将棋大会が開かれました。

勤労千葉を代表して出場した蘇我支部の小幡重三氏は、「将棋の部・個人戦」で、みごとに優勝の栄冠をかちとりました。

なお、総評主催の全国大会に県労

将棋の部で小幡重三氏（蘇我支部）みごと優勝！ 総評主催の全国大会に出場

連代表として参加しましたが惜しくも敗れました。

氏の健闘をたたえたいと思います。

小幡重三氏の談話

十一月七・八日と総評主催囲

碁・将棋全国大会に、千葉県労連代表として参加しました。
全国いろいろの単産の人達と接触できて、労働者として共通感をもって、有意義に過ごしてできました。